

ワケ カタチには理由がある(32)

～オッター(Otter)装甲車



本車両は、第二次世界大戦中、カナダ陸軍が使用した装甲車両です。1943年からハンバー装甲車の後継としてカナダで生産されました。フロントのラジエータ部分に鎧戸装甲を採用する装甲車は多くそれが醜い外観を醸す気がするのですが、この車両はオーバーハングした側面などによって鎧戸装甲も含めて全体をうまくまとめており、美しく感じます。(16)(17)で取り上げたCMPという規格で作ったガントラクターもそうですが、この頃のカナダの軍用車両のデザインはとてもセンスが良いように思います。もっとも、実際の運用では運転席側面に窓がないため、砲塔に座った者に警戒してもらわないと運転手は車輛回りの状況がわからず、相当に不安だったのではないかと想像します。砲塔に搭載した武器は、当時の優秀な軽機関砲、ブレンガンではありましたが、軽武装であることは否めず、早々に前線から撤退し輸送部隊の警護など後方で使用されたようです。なお、イタリア戦線の街角で、破棄されたイタリア軍のランチア自走砲とのツーショットがあったかも、と思い、ツーショット写真を撮りましたが、渋い色合いの画になりました。

【模型について】

ポーランドのIBG社製の1/72のインジェクションキットです。そもそも車輛類は飛行機に比べて小さいのですが、このスケールの装甲車クラスは全長で5cm程度にしかありません。写真の主役を張れるのは、これが限界のように思います。なお、このキット、細かい部分まで再現しているのですが、とにかく細かいパーツが多く、完成させるのに根気が必要でした。(中川裕幸 2021年6月)